

取組の背景・目的

さくら橋コミュニティセンターは、1986年の開設から地域の児童館として多くの親子が来館している。開設当初から乳幼児親子の居場所事業として年齢別クラス活動や、週1回のプレイルームの実施を続けていた。クラス活動に関しては、担当の職員と年間通して遊び・関わる事ができていたが、プレイルームは職員が常駐せず、親子だけが遊ぶ「自由」ではあるが場所だけ提供している「場所貸し」になっていることが課題であった。

センターの周辺は新しいマンションが建てられ、子育て世帯が増えている中で、子育てに関する悩みを抱えていたり、「ワンオペ育児」で疲弊していたり、引っ越し・転勤をして慣れない場所での子育てに孤独感や不安感を感じていたりする保護者が多く見受けられていた。そのような現状を鑑み、センターには保護者の悩みに寄り添い、相談できる職員がいること、子どもと一緒に遊びを楽しむ職員がいることを知っていただくために、2023年度より職員もプレイルームの中にいることになった。

また、保護者の方の余暇活動として「子育て支援活動」という名称で、本革の小物ケースや缶バッジ作り、リース作りなどの製作をするプログラムを開始した。

取組の概要

①プレイルーム（はだし）

- ・実施日：毎週月曜日 午前10時～12時
- ・実施場所：体育室
- ・職員体制：1名
- ・実施内容：靴を脱いではだしで遊ぶ。低月齢の赤ちゃんから遊べるおもちゃやおままごと、巧技台やすべり台等で遊ぶことができ、静の遊びと動の遊びが楽しめる。

②プレイルーム（どそく）

- ・実施日：毎週土曜日 午前10時～12時
- ・実施場所：体育室
- ・職員体制：1～2名
- ・実施内容：靴を履いて遊ぶ。コンビカーや三輪車、平均台遊び等身体を思いっきり動かして遊ぶことができる。

③子育て支援活動

- ・実施日：土曜日 午前10時～12時（月1回の実施）
- ・実施場所：体育室
- ・職員体制：1～2名
- ・実施内容：保護者のリフレッシュを目的に、親子で一緒に作ることができる製作をする。（本革のケースや缶バッジ、リース作りなど）

工夫点・留意点

プレイルーム

- その日によって、来館する年齢層が異なることがあるため、職員が遊びにきた子どもたちの年齢や発達に応じて、設定を変化させる。(0歳児が多い場合は、すべり台を緩やかにする等)
- おもちゃコンサルタントの有資格者の職員がいるため、「おもちゃの広場」をプレイルーム内で年に数回実施している。東京おもちゃ美術館のおもちゃ、木のおもちゃをその日は出し、遊び方等を職員が伝えている。保護者も木の香りを嗅いだり、一緒に子どもたちと遊んだりすることで一緒に楽しむことができている。
- 保護者との関係作りのために職員から声をかけ、お話しやすい雰囲気大切に。悩みや相談ごとを職員に話してくれるように、必要な情報提供や支援につなぎやすくなった。

子育て支援活動

- 地域の職人さんの力をお借りしたり、職員が試行錯誤したりして「大人も楽しく」できる工作を展開した。
- 保護者が没頭して作りたい場合は、他の家庭の保護者がお子さんと遊んだり職員が遊んだり、みんなで遊べるようにした。

取組の効果



- 東京おもちゃ美術館からお借りしたおもちゃで遊ぶ様子。何度も繰り返し遊ぶ姿を見てお母さんも嬉しそうである。はじめて遊ぶもの、お気に入りのおもちゃと出会う場所になっている。

- 保護者との関係作りのために職員から声をかけ、お話しやすい雰囲気大切に。悩みや相談ごとを職員に話してくれるようになり、必要な情報提供や支援につなぎやすくなった。また、継続的な支援にも繋がっている。

課題・今後の展開

- 土日の乳幼児親子の利用も増加していること、遊ぶ場所のニーズも拡大している。次年度は、日曜日のお昼の時間帯にフリースペースとして、体育室の開放を行っていく。また、小学生や中学生と乳幼児の関わりが持てるようなプログラムを展開していきたい。
- 職員が地域のフィールドワークを行ったところ、この地域には職人さんやクラフトに使えるものを取り扱っている企業が多いことを発見した。地域の方、企業にも協力をさせていただきながら、墨田区の地域の魅力も発見できるような子育て支援活動を行っていけると良い。
- 利用者支援専門員の職員がいることのPRをし、保護者の皆さんが相談しやすくより良く子育てができるように支援体制を強化していきたい。